

令和六年度

龍谷大学付属

平安中学校入学試験問題

受験番号

# 国語

## 解答上の注意

- 一. この問題用紙は「はじめ」の合図があるまで開いてはいけません。
- 二. 答えはすべて解答用紙の決められたところに書きなさい。
- 三. 解答用紙の決められたところに受験番号を書きなさい。氏名を書いてはいけません。
- 四. 問題を読むときに、声を出してはいけません。
- 五. 問題内容についての質問は受けません。
- 六. 印刷が読みにくいときは手をあげて監督者を呼びなさい。
- 七. 「やめ」の合図があったら解答用紙をおもて向け、問題用紙を解答用紙の上に置いて、回収が終わるまで席を離れてはいけません。（問題を持ち帰ることができません）



□ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

私たちがどうして一万円を持つとうれいいのかといえば、他人が一万円として受け取ってくれるからです。この「誰かが受け取ってくれる」というところがポイントです。これは物理法則ではありません。多くの人が「価値がある」と思っていることに意味がある。——社会科学の出発点は、ここにありませう。

人々の思い込み、心理、期待によって、一枚の紙切れが一万円の価値を持つ。すべての人が一万円の価値があると思うから、一万円分の価値が生じる。この論法を「自己循環論」といいま

す。  
① おカネの価値に、物理的根拠はない。「皆がおカネだと思っ

て使うから皆がおカネとして使う」という自己循環論が、おカネに価値を与えている。紙幣だけではなく、硬貨や金銀も同じです。昔の金銀は宝としてではなく、おカネとして他人が受け取ってくれるから、おカネとしての価値を持っていた。そうでなければ人に渡さずに自分で持ち、装飾品として使うでしょう。金銀がおカネとして使われるということは、装飾品としてのもの以上の価値があったということです。

同じことはコトバについてもいえます。コトバは単なる空気の振動。「ドロボー」といつてもすべての人間が「ドロボー」という意味にとるのではなく、アメリカで叫んでも誰も振り向いてくれません。日本語を理解する人にしか通用しないわけ

です。  
インクのシミである文字、書きコトバも同じです。「立入禁止」と書かれた看板を見た人は、そこに入ろうとしない。「立入禁止」の意味を持つとみんなが思っているから、通用するんです。

このように、  
② おカネもコトバも自己循環論法の産物です。

誰もがそう思っているから価値や意味を持つという、不思議な存在。  
A、物理的性質としても遺伝子的性質としても説明がつかない、みんながそう思っているという※プロセスで価値を帯びた、意味を持ったということです。さあ、これでおカネやコトバの本質が、かなり説明されてきました。

( 中 略 )

それでは、  
③ おカネやコトバが存在する前の社会はどういうものだったのか。そういう社会では、人間は共同体に属していません。コミュニティといわれるものです。古代社会の一つの共同体には、一〇〇人くらいしかいなかった。そしてコトバのない時代の共同体では、表情や身振り、叫び声などで意思が伝えられた。伝統的社会における交換は贈り物とその返礼という形で行われていました。贈り物をされた人は相手に義理を感じ、贈り物を返しますが、今度は返礼された人がその相手に義理を感じて、さらに贈り物をし、それを受けた人がさらに返礼するという果てしない贈り物と返礼のくり返しによって、モノが交換されていたのです。

日本に「お歳暮」や「お中元」の習慣があるのも、そのような古い時代の伝統の名残りです。私の両親や祖父母にとって「お歳暮」「お中元」はとても重要なことで、贈られたら必ず贈り返さなければならぬと、そのことで頭がいっぱいでした。

顔の表情や、身振り手振りで意思表示するには、お互いに顔を知っていないといけない。未知の人とは※ベーシックなこと

は通じてても、込み入ったことになると通じません。モノを贈ってくれた人に返礼するには、贈ってくれた人を覚えていなければなりません。だからおカネができる前の社会は、お互いの顔

模が限度だったでしょう。

そのような共同体は、互いに依存し合う美しい社会ともいえませんが、同時に\*でもありません。お互いが常に監視し合い、掟おきてに外れると\*村八分に合う。そういう社会は内と外がはつきりしています。仲間同士は仲がよくても、外の人とは敵対する。内は味方で、外は敵。節分の豆まきで「福は内、鬼は外」というのは正にそのことです。

コトバさえ共有していれば、知らない人でも自由にコミュニケーションが図れます。文字だったらもつと便利で、私が中国へ行つたとすれば、漢字を使った筆談がある程度成立する。

文字によるコミュニケーションが行われるインターネットでは、見知らぬ人とどんどん交流できます。ネットの世界には危険な側面も大きいのですが、意思疎通の範囲は大きく広げられる。おカネも同じで、流通していれば、見知らぬ人と交換ができる。昔、内と外があった時代は、外の人とは④物々交換をしませんでした。B、身分が違う相手とも交易しなかった。古代ギリシヤには\*奴隷がいましたが、普通の人は奴隷とは交換をしませんでした。

でも、おカネさえ持っていれば奴隷でも交換できた。ギリシヤの一番有名な奴隷はイソップ。彼は物語を書いて稼いだおカネで自由になることができました。法律がしっかりしていれば、土地を取引することもできます。法律がないと、相手の腕力が強そうだから交渉をやめようと思ったり、権力のある人に土地を取られたりしてしまう。

おカネやコトバ、それから法律などによって、人間は同じ人間になる。生命科学的な意味ではなく、\*抽象的な意味で人

間はお互いに平等な関係を持てるのです。おカネやコトバをつなぎ役として、人間は「世界の物理的構造」、「生物としての遺伝的本能」から、ある意味において⑤自由な存在になることができました。そして生物学的な意味ではなく、\*普遍的人間の本性をつくったのです。

C、人間は誰でも等しくハッピーになれるのかというと、残念ながらそうではありません。おカネとコトバ、法律は人間に自由を与えますが、同時にさまざまな問題ももたらします。人間が「世界の物理的構造」「生物としての遺伝的本能」から自由であるということは、不安定な状態に置かれるということでもあるのです。

一万円札には、皆がそう思っているから一万円の価値がある。Dみんなが疑いを持ち始めたら、日本政府は大丈夫かとなる。みんなが「価値がある」と思わないと、価値は失われてしまう。コトバも同じです。多くの人がコトバの意味を疑い出すと、コトバの意味が消えていく。皆さんが日本語を大事にしないと日本語はやがて消え、英語にとって代わられる可能性があるわけです。つまり、おカネとコトバを使う社会というのは非常に不安定で、社会が\*グローバル化すればするほど不安定さは増します。⑥そういう問題が実際に今、世界中で起きています。

(『学ぶということ』所収)

岩井克人「おカネとコトバと人間社会」

※(文中のことばの意味)

プロセス : 物事が進む道筋。

ベーシック : 基本。

村八分 : 村の決まりにそむいた人を、村人たちがのけ者にすること。

奴隷 : むかし、人間としての自由を認められず、お金で売買されて働かされた人。

抽象的 : 具体的なものと共通する性質をぬき出して意味内容を一般的にとらえるさま。

普遍的 : すべてのものに共通していること。

グローバル化 : 世界の一体化が進むこと。

問1

最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- |   |   |     |   |      |
|---|---|-----|---|------|
| ア | A | つまり | B | また   |
| イ | C | しかし | D | もちろん |
| ウ | A | だから | B | たとえば |
| エ | C | つまり | D | ところが |
| オ | A | また  | B | たとえば |
| カ | C | では  | D | だから  |
| ク | A | だから | B | また   |
| コ | C | では  | D | ところが |

問2

線①「おカネの価値」とありますが、「おカネ」としての「価値」があるものの説明としてふさわしくないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 国の記念行事で発行された五百円硬貨。
- イ 全国のお店で使える商品券。
- ウ オリンピックの金メダル。
- エ スマートフォンの電子マネー。

問3

線②「おカネもコトバも自己循環論法の産物」とありますが、どういうことですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア おカネやコトバそのものに価値や意味があるのではなく、共通の思いや認識から生じているということ。
- イ おカネもコトバも使う人によって価値が変化し、使い方によっては他人に対して通用しないということ。
- ウ おカネやコトバは時代や地域をこえて使われていて、多くの信用があつて成り立っているということ。
- エ おカネとコトバはそれぞれ異なる性質を持っているが、人々が価値を与えている点は同じだということ。

問4 ———線③「おカネやコトバが存在する前の社会」とありますが、どのような社会ですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 日ごろの感謝を表すために定期的に贈り物をし、受け取った人は必要に応じて返礼し関係を作っていた社会。
- イ 小規模の人数の中でしか通用しないコトバを使って思いを伝え、相談しながら助け合っていた社会。
- ウ 自分の考えを顔の様子や体の動きで伝え、見知った関係の人とモノを交換し合って成立していた社会。
- エ 表情や身振りによって伝わらない人とは付き合わず、贈り物をしてくれる人とだけつながっていた社会。

問5 \*にあてはまることばとして、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 不自然
- イ 不平等
- ウ 不気味
- エ 不自由

問6 ———線④「物々交換をしませんでした」とありますが、なぜですか。「くから」につながるように文中から十字以内でぬき出しなさい。

問7 ———線⑤「自由な存在になる」とありますが、どういうことですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア インターネットの世界が意思疎通の範囲を広げることで、人々は本音を言えるようになったということ。
- イ おカネなどがすべての人間を等しくすることで、人々は身分や権力にしばられなくなったということ。
- ウ おカネを多く持つ人が大きな権力を手に入れることで、奴隷と交換しなくなったということ。
- エ おカネなどが古代社会以来の身分の違いを取りはらうことで、人々を生物として対等なものにしたということ。

問8 ———線⑥「そういう問題」とありますが、どのような問題ですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア おカネを持たなければ、安定した生活を送れずに苦しむことになって、みんなが外国のおカネを使うようになるという問題。
- イ 人々の信用が失われてしまえば、おカネの価値やコトバの意味がなくなると、社会の安定性が揺らいでしまうという問題。
- ウ おカネの価値がなくなれば、欲しいものがあっても買うことができなくなると、幸福な人生を送れなくなるという問題。
- エ 人々がコトバの意味を疑えば、日本語を正しく使うことができなくなると、世界での日本語の価値が下がってしまうという問題。

問9 次の(1)・(2)について、後の問いに答えなさい。

(1) この文章を読み終えた後に、四人の生徒が話し合いました。本文の内容を読み間違えている人物を一人選び、記号で答えなさい。

ア…生徒A

僕たちが使うさまざまなおカネは、金額に相当した重さ  
できてきているものとして、みんなから信用されているとい  
うことが分かったよ。

イ…生徒B

古い時代の伝統的な社会では物の交換によって人間関係  
が成り立って、今の日本社会にもその名残があるという  
ことを、私は知ることができたわ。

ウ…生徒C

「内」と「外」という言葉の関係性が「味方」と「敵」  
を表していることを知って、今まで意識したことがなかつ  
た豆まきのかげ声の意味が理解できたよ。

エ…生徒D

コトバの意味を理解し合うことができるなら、初対面の  
人とでも考えを共有できて、ネットの世界では文字を通し  
て顔を知らない相手とも交流できるんだね。

(2) 次の内容は、ある生徒がこの文章をまとめたノートの一部  
です。

中からぬき出しなさい。

タイトル「おカネとコトバと人間社会」

- 一枚の紙切れが一万円分の価値を持つのは、すべての人  
がおカネと使って使うからであり、**I** 的な理由がある  
わけではない。
- 会話でのコトバも書きコトバも、聞いたり見たりする人  
がそういう意味だと思って理解するから通用する。
- コトバのない時代の共同体では、**II** の人と複雑なや  
りとりはできなかった。
- おカネやコトバなどは人間に自由を与える一方で、さま  
ざまな問題ももたらしている。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「僕（ぼく）（松岡清澄）」は幼いころに祖母の影響を受けて手芸に熱中していたが、祖母や母からはその手芸のせいで「僕」に友達ができないのではないかと心配されていた。ある時、「僕」は結婚式を控えている姉から「飾りのないシンプルなウェディングドレスを作ってほしい」と頼まれた。派手さを嫌い、華やかなドレスを拒絶する姉のために「僕」はドレスを作る決意をする。

昼休みの教室には、机をくつつけたいくつもの島ができていた。大陸と呼びたいような大所帯もある。中学の給食の時間とは違う。めいめい仲の良い相手と昼食をともにすることができ

る。入学式から半月以上過ぎた。僕は教卓の近くの、机みつつぶんの島にいる。宮多を中心とする、五人組のグループだ。

宮多たちは、にやんこなんとかという僕の知らないスマホゲームの話で盛り上がっている。猫のキャラクターがたくさん出てきて戦うのだという。ゲームをする習慣がないから、意味がよくわからない。さつきからぜんぜん話に入れない。課金とかログインボーナスという単語が飛び交っている。もう、相槌すら打てなくなってきた。

祖母の顔を思い出して、懸命に話についていこうとした。だつて友だちがいけないのは、よくないことなのだ。家族に心配されるようなことなのだから。

「なあ、松岡くんは」  
宮多の話す声が、途中で聞こえなくなった。ふいに高杉くるみが視界に入ったから。

世界地図なら、砂粒ほどのサイズで描かれる孤島。そこに彼女

はいた。箸でつまんだたまごやきを口に運んでいる。唇の両端がきゅつと持ち上がった。虚勢を張るわけでもなく、おどおどするでもなく、たまごやきを味わっている。① その顔を見た瞬間「ごめん」と口走っていた。

「え」  
「ごめん。俺、見たい本あるから席に戻るわ」

ぽかんと口を開ける宮多たちに、背を向ける。  
図書室で借りた、世界各国の民族衣装に施された刺繍を集めた本を開く。宮多たちがこの本に興味を示すとは、② 到底思えない。わかってもらえないわけがない。ほんとうは『明治の刺繍絵画名品集』という大きな図録がよかった。残念ながらそちらは貸出禁止になっていたのだ。どのように糸を重ねてあるか、食い入るように眺める。ここはこうなつて、こうなつて。勝手に指が動く。

ふと顔を上げると、近くにいた数名がこっちを見ていた。男女混合の四人グループのうちのひとりが僕の手つきを真似て、くすくす笑っている。

「なに？」  
自分で思っていたより、大きな声が出た。他の島の生徒たちが気づいて、こちらに注目しているのがわかった。宮多たちも、でももう、あとには引けない。

「なあ、なんか用？」

まさか話しかけられるとは思っていなかったのか、ひとりがぎよつとしたように目を見開く。その隣の男子が「は？ なんなん」と頬をひきつらせた。

「いや、なんなん？ そつちこそ」

べつに。なあ。うん。彼らはもごもご言い合い、視線を逸らす。教室に、ざわめきが戻る。② 遠くで交わされるひそやかなささやきや笑い声が、耳たぶをちりつと掠めた。

校門をでたところでキヨくん、と呼ばれた。振り返ったその瞬間に、強い風が吹く。

キヨくん。小学校低学年の頃のままだに、高杉くるみは僕の名を呼ぶ。当時は僕も彼女を「くるみちゃん」と親しげな感じで呼んでいたのだが、学年が上がるにつれて会話の機会が減り、今ではもうどう呼べばいいのかわからない。

「高杉さん。くるみさん。どっちで呼んだらええかな？」  
「どっちでも」

名字が高杉というだけで塾の子らに「晋作」と呼ばれていた時期があつて嫌だった、なので晋作でなければ、なんと呼ばれても構わないらしい。

※高杉晋作、嫌いなん？」

「嫌いじゃないけど、もうちよい長生きしたいやん」

「なるほど。じゃあ……くるみさん、かな」

歩いていると、グラウンドの野球部やサッカー部の声がどんどん遠くなつていく。今日は世界がうっすらと黄色くて、遠くの山がぼやけて見えた。春はいつもそうだ。すべての輪郭があまりいまいになる。

「あんまり気にせんほうがええよ。山田くんたちのことは」

「山田って誰？」

僕の手つきを真似て笑っていたのが山田。※某らしい。

「私らと同じ中学やつたで」

「覚えてない」

個性は大事、というようなことを人はよく言うが、学校以上に「個性を尊重すること、伸ばすこと」に向いていない場所は、たぶんない。柴犬の群れに交じつた※ナポリタン・マスティフ。あるいはポメラニアン。集団の中で①もてはやされる個性なん、せいぜいその程度のものだ。Aの集団にBが入つ

てきたら、あつかいに困る。

アヒルはアヒルの群れに交じれば見分けがつかなくなる。その程度のめずらしさであっても、学校ではもてあまされる。浮く。くすくす笑いながら仕草を真似される。

「だいじょうぶ。慣れてるし」

けど、お気遣いありがとう。そう言って隣を見たら、くるみはいなかった。数メートル後方でしゃがんでいる。灰色の石をつまみあげて、しげしげと観察しはじめた。

③なにしてんの？」

「うん、石」

うん、石。ぜんぜん答えになってない。入学式の日「石が好き」だと言っていたことはもちろんちゃんと覚えていたが、まさか道端の石を拾っているとは思わなかった。

「いつも石拾つてんの？ 帰るときに」

「いつもではないよ。だいたい土日にさがしに行く。河原とか、山に」

「土日に？ わざわざ？」

「やすりで磨くの。つるつるのびかびかになるまで」

放課後の時間はすべて石の研磨にあてているという。ほんまにきれいななんねんで、と言う④頬がかすかに上気している。

ポケットから取り出して見せられた石は三角のおにぎりのような形状だった。たしかによく磨かれている。触つてもええよ、と言われて、手を伸ばした。指先で、しばらくすべすべとした感触を楽しむ。

「さつき拾つた石も磨くの？」

くるみはすこし考えて、これはたぶん磨かへん、と答えた。

「磨かれたくない石もあるから。つるつるのびかびかになりたくないってこの石が言うてる」

石には石の意思がある。駄洒落のようなことを真顔で言うが、

意味がわからない。

「石の意思、わかんのか？」

「わかりたい、といつも思ってる。それに、ぴかぴかしてないときれいやないってわけでもないやんか。ごつごつのざらざらの石のきれいさってあるから。そこは尊重してやらんとな」

じゃあね。その挨拶があまりに唐突でそっけなかったたので、怒ったのかと一瞬焦った。

「キヨくん、まつすぐやろ。私、こつちやから」

川沿いの道を一步踏み出してから振り返った。ずんずんと前進していくくるみの後ろ姿は、巨大なリュックが移動しているように見えた。

石を磨くのが楽しいという話も、石の意思という話も、よくわからなかった。わからなくて、おもしろい。わからないことに触れるということ。似たもの同士で「わかるわかる」と言い合うより、そのほうが楽しい。

ポケットの中でスマートフォンが鳴って、宮多からのメッセージが表示された。

「昼、なんか怒ってた？ もしや俺あかんこと言うた？」

違う。声に出して言いそうになる。宮多は何も悪いことをしていない。ただ僕があの時、気づいてしまっただけだ。自分が楽しいふりをしてしていることに。

いつも、ひとりだった。

教科書を忘れたときに気軽に借りる相手がいないのは、<sup>◎</sup>もとない。ひとりでぼつんと弁当を食べるのは、わびしい。でもさびしさをごまかすために、自分の好きなことを好きではないふりをするのは、好きではないことを好きなふりをするのは、もつともつとさびしい。

好きなものを追い求めることは、楽しいと同時にとても苦しい。<sup>⑤</sup>その苦しさに耐える覚悟が、僕にはあるのか。

文字を入力する指がひどく震える。

「ちやうねん。ほんまに本読みたかっただけ。刺繍の本」

ポケットからハンカチを取り出した。祖母にほめられた猫の刺繍を撮影して送った。すぐに既読の通知がつく。

「こうやって刺繍するのが趣味で、ゲームとかはほんまはぜんぜん興味なくて、自分の席に戻りたかった。ごめん」

ポケットにスマートフォンをつっこんだ。数歩歩いたところで、またスマートフォンが鳴った。

「え、めつちやうまいやん。松岡くんすごいな」

そのメッセージを、何度も繰り返し読んだ。

わかってもらえるわけがない。どうして勝手にそう思いこんでいたのだろう。

今まで出会ってきた人間が、みんなそうだったから。だとしても、宮多は彼らではないのに。

いつのまにか、また靴紐がほどけていた。しゃがんだ瞬間、川で魚がぱしゃんと跳ねた。波紋が幾重にも広がる。太陽の光を受けた川の水面が風で波打つ。まぶしさに目の奥が痛くなつて、じんわりと涙が滲む。

きらめくもの。揺らめくもの。目に見えていても、かたちのないものには触れられない。すくいとって保管することはできない。太陽が翳ればたちまち消え失せる。だからこそ美しいのだとわかっていても、願う。布の上で、あれを再現できたらいい。そうすれば指で触れて確かめられる。身にまとうことだつて。そういうドレスをつくりたい。着てほしい。<sup>⑥</sup>すべてのものを「無理」と遠ざける姉にこそ。きらめくもの。揺らめくもの。どうせ触れられないのだから、なんてあきらめる必要などない。無理なんかじゃないから、ぜったい。

どんな布を、どんなかたちに裁断して、どんな装飾を施せばいいのか。それを考えはじめたら、いてもたってもいられなく

なる。

それから、明日。明日、学校に行ったら、宮多に例のにやんこなにかというゲームのことを、教えてもらおう。好きじゃないものを好きならする必要はない。でも僕はまだ宮多たちのことをよく知らない。知ろうとしてもしていなかった。

⑦靴紐をきつく締め直して、歩く速度をはやめる。

( 寺地はるな 『水を縫う』 )

※(文中のことばの意味)

高杉晋作 … 幕末に活躍し、若くして亡くなった歴史上の人物。

某 … 名などがはっきりしないことを示す。だれそれ。

ナポリタン・マステイフ … 大型の犬種。

問1

~~~~~線①②③のことばについて、文中における意味として最もふさわしいものを次の中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

① 到底

ア 必ずしも

イ 結局は

ウ どうしても

エ おそらく

② もてはやされる

ア からかわれる

イ ほめたてられる

ウ 距離をおかれる

エ 注目される

③ 心もとない

ア 思い通りにいかない

イ どうしようもない

ウ なぜか腹立たしい

エ 不安で落ち着かない

問2

——線①「その顔を見た瞬間『ごめん』と口走っていた」とありますが、なぜですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 宮多たちの話の幼稚さに嫌気がさしていたが、一人で食事をする方が楽しそうなくなるみを見て、自分と同じ気持ちの仲間がいたことに安心したから。
- イ 宮多たちの話についていけないことに焦りがあったが、一人でも食事を楽しんでいるくるみを見て、自分の興味を優先したいという気持ちになったから。
- ウ 宮多たちの話についていけず恥じらいがあったが、一人での食事を気にしていないくるみを見て、自分も一人で平気だと見栄を張りたくなったから。
- エ 宮多たちの話になんとかついていけて安心していたが、一人でさびしそうに食事をしているくるみを見て、自分だけが楽しむことはできないと思いついたから。

問3

——線②「遠くで交わされるひそやかなささやきや笑い声が、耳たぶをちりっと掠めた」とありますが、このときの「僕」の気持ちはどのようなものですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 同級生たちとのやりとりから、実は宮多たちも一緒になつてからかかっていたことに気づいて傷ついている。
- イ 同級生にからかわれたことに大きく動揺し、周囲の目線や会話がすべて自分への敵意のように感じている。
- ウ 同級生とのやりとりが思ったよりも目立ち、宮多や周りの人たちにどう思われているかが気になっている。
- エ 同級生に対して強気な態度をとったことで、周囲との溝が深まったことを後悔している。

問4

最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- |   |   |    |   |        |
|---|---|----|---|--------|
| ア | A | 犬  | B | アヒル    |
| イ | A | 鳥  | B | アヒル    |
| ウ | A | 柴犬 | B | ポメラニアン |
| エ | A | 動物 | B | ポメラニアン |

問5

——線③「なにしてんの？」とありますが、その答えとして最もふさわしい部分を文中から十字でぬき出しなさい。

問6

——線④「頬がかすかに上気している」とありますが、このときのくるみの気持ちを表したことばとして最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 動揺
- イ 興奮
- ウ 不満
- エ 緊張

問7

——線⑤「その苦しさに耐える覚悟が、僕にはあるのか」とありますが、「苦しさ」とは具体的にどのようなことですか。次のX・Yにあてはまることを、文中から指定された字数でそれぞれぬき出しなさい。

X(二十二字)      ことや、      Y(十四字)      こと。

問8

——線⑥「すべてのものを『無理』と遠ざける姉にこそ」とありますが、「僕」は「姉」を誰と重ねているのですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 好きなものを好きと貫き通しているくるみ。
- イ 趣味を理解してもらおうことを諦めていた「僕」自身。
- ウ 「僕」の趣味を受け入れて褒めてくれた宮多。
- エ 自分が理解できないことすべてを馬鹿にする山田たち。

問9

——線⑦「靴紐をきつく締め直して、歩く速度をはやめる」とありますが、このときの「僕」の気持ちはどのようなものですか。ふさわしいものを次の中から二つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア 宮多たちと新たな関係を築く糸口が見つかったことで前向きになっている。
- イ 前から興味のあったスマホゲームについて聞けることに期待している。
- ウ 宮多というかけがえのない親友に出会えたことに感謝している。
- エ 早く家に帰って姉のドレスについて構想したいと待ちきれないでいる。
- オ 姉のためではなく自分のためにドレスを作るのだと決意している。

問10

本文に登場する人物の説明として、ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「僕」は自分の趣味を優先したいと思いつつも、友人がほしいという思いも捨てきれずに悩んでいる。
- イ 山田は「僕」と仲良くなるために声をかけたが、冷たい反応が返ってきたのでつまらなく思っている。
- ウ くるみは他人からどう思われても気にしておらず、「僕」に対してもほとんど興味を持っていない。
- エ 宮多は山田たちを恐れて「僕」に話しかけなかったが、メッセージを通して「僕」に理解を示そうとしている。

三 次の各文には、漢字の誤りが一字あります。それぞれ誤った漢字をぬき出した上で、正しい漢字を答えなさい。

- ① 教科書の文章を一字一字丁寧にノートに書き移す。
- ② 大人数が集まって野球ができる公園は以外と少ない。
- ③ 病気を直すために仕事を一度辞めることにした。
- ④ 双子のパンダの赤ちゃんが世間の感心を集めている。
- ⑤ 今年の夏は例年よりも熱くなるという予報が出ている。

四 次の――線のカタカナは漢字に直し、漢字は読みを答えなさい。

- ① グンシユウをかきわけて進む。
- ② クツウに顔をゆがめる。
- ③ 信号をムシしてはいけません。
- ④ 生活習慣のカイゼンに取り組む。
- ⑤ きれいなイチョウナミキに見とれる。
- ⑥ 制服のサイズを採寸する。
- ⑦ 事件の背景について調べる。
- ⑧ 沿道の観客を整理する。
- ⑨ カードの収集が趣味だ。
- ⑩ 早めに冬休みの課題を済ませる。

これで問題は終わります。